

あせび小屋利用の手引き



阿蘇くじゅう国立公園特別地域内

ラムサール条約登録湿地

くじゅう坊ガツル湿原 位置：北緯33度6分、東経131度15分／標高：1230～1270m／面積53ha／湿地のタイプ：中間湿原／保護の制度：国立公園特別保護地区および特別地域／所在地：大分県竹田市、九重町／登録：2005年11月／国際登録基準：1／湿地のタイプ：中間湿原

平成17年11月8日、アフリカのウガンダで開催された第9回ラムサール条約締約国会議にて、くじゅう坊ガツル・タデ原湿原が保全すべき重要な湿地として登録されました。中間湿原としては、国内最大級の面積を有しています。

平成27年度版
しんつくし山岳会(あせび小屋運営委員会)

「小屋利用の方々へのお願い」

- 一．炊事場以外での『火』の使用は厳禁です
 - 一．寝タバコは絶対にしないでください
 - 一．小屋周辺で絶対に焚火をしないでください
 - 一．飲食はかならずホールでしてください
 - 一．夜間は静かに、節度ある言動をしてください
 - 一．ガスのコック元栓は確実に締めてください
(プロパンG小銭のカンパをお願いします)
 - 一．自家発電のため、節電にご協力ください
 - 一．生ゴミは、小屋外の生ゴミ捨て場へ捨ててください
(生ゴミの中にビニール類を混ぜ込まない)
 - 一．不燃物(カン・ビン他)類は必ず持ち帰ってください
 - 一．動物は屋内へ入れないでください
 - 一．戸締まりは確実に励行してください
(窓サッシのフック・ロックとも)
 - 帰りは必ず掃除をしてください
 - 食料酒類の残りは総て持ち帰ってください
 - 十時までには荷物を外に出してください
- ※ 何かと注文が多いですが、いつまでも小屋を大切に
思う気持ちからです。
小屋運営にご理解とご支援をお願いします。

あせび小屋運営委員会

安全登山の第一歩

◎登山計画書の作成と提出

毎年、全国の登山において多くの遭難事故が発生しています。とりわけ、遭難者に占める中高年登山者の割合は7-8割と高く、転・滑落、道迷い、転倒などの事故が多発しています。

例えば春山の時期、ふもとは初夏の装いでも、山では天候が急変すれば降雪もあり、冬山に様変わりします。春山に対する認識が甘く、天候に関する不適切な判断や、不十分な装備で体力的に無理な計画を立てるなど、知識・経験・体力の不足から、遭難に至ることが多く見受けられます。また、仲間に連れて行ってもらうだけという人まかせな考えからか、登山中に仲間とはぐれて道に迷うなど、離散型の遭難事故も多くみられます。

登山は、自己責任において行わなければなりません。それは計画から帰宅するまでの一切を自分で主体的にやり遂げるということです。

登山は計画する段階から始まっています。遭難事故は準備を十分に行なうことでそのリスクを減らすことができます。対象山域の最新情報を入手し、登山計画書を作成しながら入山中に考えられるリスクを整理して、リスク回避の対策を前もって立てるようにしてください。

○登山計画の作成に当たっての留意事項

- ① 「道迷い遭難」などを起こさないように、地形の特徴を1/25000地形図で把握する。
- ② 事前に週間天気予報などを参考に、行動期間中の天気の推移を見極めて登山計画を立てる。
- ③ 単独登山を避け登山計画書(登山届)を提出のうえ、万全な計画・装備を持って出かける。

○山での行動の留意事項

- ① 長時間の行動により想像以上に体力・集中力は落ちることを自覚する。
- ② 意識的に仲間と声を掛け合い、こまめに休憩を取り、エネルギー、糖分・水分補給などで心身をリフレッシュする。また、ゆっくり歩くなど、体力の消耗を防ぐ。
- ③ 常に最新の気象情報を入手したり、観天望気を行う。
- ④ 山行続行or撤退などの判断を適切にし無理をしない など

○安全な登山を実行するための留意事項

- ① 各都道府県山岳連盟等の講習会などの利用、信頼ある山岳会等に入会して安全登山に必要な知識や技能を身につける。
- ② 日頃からトレーニングを怠らず体力の向上に努める。
- ③ 特に、初心者は経験豊かで判断力のあるリーダーのもと、単独行を避け各自の体力と経験に応じた山に登る。

○登山計画書(登山届)の提出先

- 家庭、クラブ(山岳会)、職場、学校等。
- 山域の登山指導センターや案内所、登山口の登山届ポストなど。
- 登山地域の都道府県警察本部地域課または山域を管轄する警察署、交番、駐在所。

入山(小屋入り)から下山(出立)まで

1. 宿泊手続き
 - ①通常時は到着時、法華院温泉山荘 受付で利用券と宿泊者カード(事前に記入)を提出し、支払い手続きをします。
法華院温泉山荘より収入済の印が押された宿泊者カードと、小屋の鍵を受け取り、小屋に入ります。
支払受付を済ませた宿泊者カードは、小屋の管理者に渡してください。
なお、小屋の管理者不在(事前連絡)の場合は法華院受付に預けてください。
 - ②小屋に直接到着の場合(管理者駐在時)は、利用券と宿泊者カード(事前に記入)を提出し、支払い手続きをします。
(利用者数の確認、部屋割りをします)
2. 利用中
 - 【小屋での活動、入浴、夕食、朝食等は計画的に行ってください】
 - ◎消灯は22:00です。夜間は静かにお休みください。
※晴天時・荒天時の活動判断や場所等についてのご相談は、活動を始められる前に小屋の管理者にお声掛けください。
なお、非常時に備え、常にグループ内のメンバーの把握に努めておいてください。
 - 《入浴》 チェックイン後から20:00時頃までとしています。
また、小屋設置の草履での行き来はしないでください。
なお、法華院温泉の入浴では、石鹸・シャンプー等の使用は出来ません。
夜道は道迷いに注意してください。
 - 《調理等》 炊事場のスペース、器具等は皆さんで譲り合って使用してください。
なお、炊事場以外での火器使用は厳禁となっています。
 - 《飲食》 各部屋での飲食は出来ませんので、ホールの各テーブルでお願いします。
 - 《注意》 階段・床は滑りやすいので、転落・転倒や天井で頭を打ったりするなどの危険がありますので、注意してください。
3. 出立日
 - 【10:00までに清掃・後片付け・戸締りを終わらせて下さい】
 - (1)寝具の整頓 布団等の寝具は、折り目をそろえて整頓し元の場所に置き、カバーを掛けます。
 - (2)清掃 宿泊室・床廊下・ホール・炊事場・トイレ等の清掃をします。
テーブルも拭いてください。
炊事場の用具、使った食器を元の場所に戻してください。
次の利用者のことを考えて、来た時よりもきれいに清掃しましょう。
 - (3)ゴミ・缶類 持ち込まれて残ったゴミ類は総てお持ち帰りとなります。
生ゴミは別途処理してください。
 - (4)荷物の移動 電気を消し、ガスの元栓を締め、確実に戸締まりをしてから、小屋の玄関横のベンチに移動してください。

※最後にもう一度忘れ物がないか、ご確認ください

健康に、安全に過ごすために

高所にある施設での環境に慣れず、体調を崩すことがあります。
よりよい山小屋利用のために、次のことにご留意ください。

【健康について】

1. 体調を把握しておきましょう。

- (1)各グループのリーダーは、常にメンバーの健康状態の把握に努めておいてください。
- (2)グループで救急用品を準備し、メンバーに対しては常備薬を携行するよう指導してください。原則として、医薬品はお渡しできません。
- (3)熱中症が心配される時期には、活動中の水分補給・休養を徹底してください。

2. よく休み、よく食べることが大事。

- 睡眠時間を十分に確保してください。体調が良くない時には無理は禁物です。
また、食事についても、バランスの取れた食事に心がけ、食べ過ぎや飲み過ぎ(成人)にも注意してください。

3. ケガ人や病気の方がいたら、駐在管理者または法華院温泉山荘へ連絡をお願いします。

- 応急手当は各グループで行ってください。小屋には救急医薬品・AED等は配置してありません。
- 病院への救急搬送は各グループにてお願いします。受診後は事故の状況や診断結果等を必ずお知らせください。

【安全について】

1. 小屋入りしたら・・・

- 客室棟の配置・設備(消火器等)をご確認ください。

2. 野外活動について

- 活動時に、体調の悪化や天候の急変などによる緊急事態が発生した場合には、小屋の駐在管理者または法華院温泉山荘へ携帯電話等で救急連絡を入れてください。
(山中のため通信・通話ができにくい場合があります)
- 活動の際には、雨具等を携行し、天候の急変に備えてください。
また、非常時のため水と食料・ライト等も携行しておいてください。
- 季節により環境が一変します。人に害をおよぼす動植物や冬期の凍結など、思わぬ事故が発生しますので、安全には十分に留意し、活動を行ってください。
また、敷地内であっても、森の中では単独行動を避けてください。

3. その他

- 貴重品は各グループで管理をお願いします。
- 小屋に電話は設置していません。
- 器物の破損、紛失等があった時は、速やかに小屋の駐在管理者に届けてください。
(状況によっては弁償をお願いします)
- 花火は禁止です。
- 乾季の節水、節電、省エネにご協力ください。
- 当施設は、「小屋利用の趣旨」を目的として一般に開放しています。
施設を正しく利用いただけない場合は、ただちに施設利用をお断りし、今後の利用についてもお断りさせていただく場合がございます。

「来た時よりも美しく」

* ご理解・ご協力をおねがいします。

あせび小屋利用について

次世代への橋渡しのために

自然と歴史から学び、やさしい文化を創造する

あせび小屋への招待状《趣旨》

初代あせび小屋は、九重山群の中心部となる法華院を拠り所とし、九州登山史の岳人達により昭和期に建てられ、戦前に新築された特異な山小屋です。山を愛する人達の情熱を伝える唯一の文化遺産です。

あせび小屋は、近代建築の黎明期から昭和中期にかけて活躍した建築家、長谷部鋭吉（1885-1960）の設計によって1940年に建築されました。失ってはならない遺産であると信じたのは、まず建築家長谷部鋭吉による質の高い民家様式の山荘建築であったからです。しかも、多くの人たちに愛着をもって守られてきていたことも分っています。この空間は、彼らが終生奉仕者であり続けようとした人生観の温もりを感受できます。

簡素にして品格のあるこの空間に足を踏み入れた方々は、異口同音に「この山荘に居ますと心が和みます」と印象を述べられます。何故でしょうか。私は、最大の理由を、そこに維持保全を繋いできた人々の精神が宿っているからだと思っています。

私たちの先輩から受け継いだこれらのものを次の世代に伝えるために、この国のうつくしい自然を、未来へつなげていくこと。環境の尊重を視点にした「やさしい文化の創造」に寄与することを目的としたい。広く多くの方々、地域にも、歴史的資産の保全や自然との共存を担う活動を行っています。

このような山荘に出会えたのは幸運であったといわねばなりません。私たちは、75年の歴史を刻んできた木の器に再びこころを込め輝かせていく使命を授けられました。そのためにはどのような方法があるのか検討を始めています。基本としては、オリジナルの現状を維持していき、多くの次世代の子供たちに体験を伝えたい。

また、九重の山々に親しんできた人々憩いの場として活かしていきたいのです。そして今の私たちが、何を情報発信していけば良いのかを考えていきます。そのためにも文化財としての「あせび小屋」を末永く健全な姿のまま維持保全していくことにより、建物の活用を図り、生涯学習をはじめとする人材育成や芸術文化活動の場と機会を提供し、地域貢献に参加できることを願っています。

利用のすすめ

九重山群は、美しい自然と貴重な生態系を持ち、「自然の宝庫」と称されています。くじゅう「坊ヶツル湿原とタデ原湿原」は、「国立公園特別保護地区」、「ラムサール条約湿地」に指定されており、豊かな自然に育まれた希少生物が、絶妙な生態系を保ちながら生息しているところです。その一方で、多くのハイカーが訪れることによる自然破壊が問題となり、環境保全のために様々な対策がとられてきました。くじゅうは、九州での「自然保護運動の原点」と言われています。現在、登山道の整備、野焼きやミヤマキリシマの植生保護などの活動が行われています。私たちは、そのようなくじゅうを優れた「自然体験の場」と考えています。

「自然との調和を図りながら、人々が自然とともに生活するために、自分たちは何をどうしていけばよいのだろうか？」といった深まりのある具体的・実践的な体験ができると思います。

そこで、会では、大人から子供達まで、リーダーを伴った少人数のグループによる山小屋生活と登山、質の高い自然体験を通して、身近な自然を守ることの大切さ、ひいては地球の環境を守ることの大切さを、一度はあせび小屋を訪れ学んでもらいたいと思っています。さらに、現代では忘れ去られようとしている里山を愛する心を育んでもらいたいと願い、小屋の利用を考えています。

「自然との調和を図りながら、人々が自然とともに生活するために、自分たちは何をどうしていけばよいのだろうか？」といった深まりのある具体的・実践的な体験ができると思います。

あせび小屋利用のしおり(手順)

【平成27年5月 しんつくし山岳会(あせび小屋運営委員会)】

手順(1)

法華院温泉山荘に到着です



手順(2)

法華院温泉山荘 受付で手続きです
(紹介券と宿泊者カード)



手順(3)

法華院温泉山荘の風呂場入り口
(酒類販売店、ビールの自動販売機)



手順(4)

あせび小屋正面ゲート 開けて入ります



手順(5)

あせび小屋正面玄関
法華院で預かった鍵で開けます



手順(6)

玄関を入り、突き当たりのサッシ引き戸のロックを開けると炊事場です



手順(7)

炊事場の奥に配電盤があります
2つのスイッチを【入・ON】にします



※客室ホールと便所の2つ以外は触らないこと

手順(8)

炊事場は3つのシンクとガス炊飯器、鍋類
等々があります



手順(9)

ガスコンロは3台、「元栓切りを忘れずに、火
気に注意」です



手順(10)

食器類は色々あります 使ったらよく洗って、
ふいてから元の場所に戻してください



手順(11)

トイレは外です(水洗式)
詰まらせないようにきれいに使ってください



手順(12)

帰りは、布団を元の通りキッチンとたたんでな
おしてください



手順(13)

来たときよりも美しく掃除をお願いします
(持ち込んだものは持ち帰ってください)



手順(14)

窓の戸締まりは、フックを掛けてロックします



手順(15)

最後に配電盤の2つのスイッチを切ります



改修後の外観(平成25年末)



坊ガツルのテントサイトの景観



帰路はゴミなど残さず爽やかに

